

共に笑い 共に泣いて 猿舞座公演

日時 2011年11月5日(土) 11時 開演

場所 長野市豊野西小学校

入場無料

投げ銭大歓迎

伝統芸能 猿廻し

猿を叩いて調教せず、猿と仲良くなって信頼関係を結んだ上で仕込んでいく



出 演
猿舞座座長 村崎 修二
若頭 村崎 耕平
お猿の夏水
浅草雑芸団
代表 上島 敏昭



廻しは、猿舞・猿飼・猿曳きとも言われ、日本では12世紀中頃からはじまりました。江戸では「長吏頭・弾左衛門」の配下として藩主の前で猿廻しを見せたり、厩を抜く役目を果たしました。猿廻し全盛期には東京の猿廻しのほとんどが山口県の被差別部落の人たちでした。こうした猿廻しも戦後少なくなり、いったんは途絶えました。そして猿廻しが復活して34年。猿の調教法には本仕込みと、たたき仕込みがあります。猿舞座は本仕込みの伝統芸を引き継いでいます。この猿舞座と日本の口上芸の第一人者だった、故・坂野比呂志師の指導を受け大道芸塾を設立した浅草雑芸団代表の上島さんとの共演です。

主催 NPO 法人 人権センターながの

共催 長野市豊野公民館
長野市豊野子ども人権教室

出演者紹介

「猿舞座」座長

村崎修二さん

山口県出身



1970年、俳優の小沢昭一がレコード「日本の放浪芸」シリーズの「猿まわし」調査に山口県を訪れた際に、兄・義正とともに途絶えていた猿まわしの調査研究を促され、雑誌「芸能東西」に詩人・丸岡忠雄とともに「周防じょうげゆき・考」として連載。77年には民俗学者の宮本常一に師事し、「猿まわしの復活」をめざす。

生態学者、今西錦司などの支援を受けて、77年12月に「周防猿まわしの会」を結成。78～88年の間、京都大学霊長類研究所の協同研究員として「サル」の教育研究に携わる。82年、丸岡忠雄の支援を得て、筑豊大介らとともに「猿舞座」を結成。五月三郎を師匠に「本仕込み」の手法を学ぶ。「里めぐり」という伝統的な猿まわしの芸能にこだわり現在も全国各地で活動を行っている。

「浅草雑芸団」団長

上島敏昭さん

長野県出身

大道芸人・編集者。浅草雑芸団代表。東京都大道芸ライセンス「ヘブンアーティスト」審査員。日本の口上芸の第一人者だった、故・坂野比呂志師の指導を受け、坂野比呂志大道芸塾(現浅草雑芸団)を設立。伝統的な放下芸、大神楽系の曲芸、ちんどん等など多芸。猿舞座とは1991年頃からともに旅をし、いまや猿舞座にはなくてはならない存在となっている。



「猿舞座」若頭 村崎耕平さん

山口県出身



村崎修二は父。京都・花園大学文学部卒業後、上京し、2000年、劇団東京乾電池14期研究生となる。東京・高円寺を中心に歌うたい、俳優、脚本家として活動。05年より山口に帰郷し、猿舞座に参加。06年、夏美とのコンビを結成。猿舞座の座長から本仕込みを学び、現在、全国を里めぐりし活動し、修行の日である。

村崎耕平さんからのメッセージ

様々な回り道を経て 僕は猿まわしになります

自然との調和「本仕込み」

野や里を巡る「道復の芸能」

人々のために「輪の芸能」

探求を続ける「半芸半学」

僕らが掲げる宿題です

どんな答えが待っているのか前途多難な旅の始まりです。

共に笑い 共に泣いて

僕らの旅を たすけていただけるとしあわせです

お猿の「夏水」

京都府嵐山出身ニホンザルのオス。色白、赤毛、小顔の美男子。ミカン、落花生、かためのバナナが好物。